

世界の神話 (一)

賢者 使命 蘇り 予言 占い

上月まこと 著



世界の神話
(一)

賢者 使命 蘇り 予言 占い

上月まこと



一、男を殺す女神たち

母である運命女神キュベレー（別名レア）を犯そうとした至高神ゼウスは、抵抗されたせいで精液の一部を地面に垂らし、そこから両性具有のアグデイスティスが生まれた。しかし性質が凶暴だったので神々は彼を去勢することに決め、酒神ディオニユスが酔わせて眠らせ、髪の毛で男根を縛り木に繋いでおいた。目覚めたアグデイスティスは暴れ狂うこと^{みずか}で自ら去勢し、切断された男根がアーモンド（もしくは柘榴^{ざくろ}）の木に変わった。この木の実を摘んで食べた河神サンガリオスの娘ナナは途端に身籠^ごもり、産み落とし



たアツテイス（「牡山羊」という意味）は牡山羊に預けられた。

牧人アツテイスは美しい若者になり、その美しさが評判になって王の娘と婚約した。しかしアグデイスとキュベレーが彼に恋をして争い、結婚の祝祭歌が謡うたわれている席へアグデイスとキュベレーが彼に踏み込んだので、狂乱したアツテイスは女神キュベレーを祀まつる松の木の下で自分を去勢し、血を流しながら息絶えた。

【ギリシア神話】パウサニアス『地理史』など

自分が呪い殺し没ミルラ葉の木に変えた女が、最期ごの一念で樹皮の中



に遺児アドニス（セム語で「主Ⅱアドナイ」という意味）を産んだと知った愛欲女神アプロダイーテは、処分に困りその養育を冥府女神ペルセポネに委託した。やがて美しく成長したアドニスにアプロダイーテは恋をし、同じく彼に心を奪われたペルセポネとのあいだで取り合いになる。話し合いの末アドニスは一年の三分の一を冥府で過ごし、残りの時間をアプロダイーテと過ごすようになった。ところがアドニスは男同士何人かで狩りに出かけ、猪（野生の豚）に突かれて死んでしまったので、アプロダイーテの手からは結局永遠に失われた。

【ギリシア神話】アポロドロス『神話』など



夫を愛するあまり、夫タンムーズの死を前もってとり除のぞこう（不
 死化しよう）と冥府に戦いを挑いどんだ豊穰女神イシュタルは、冥府の
 入り口にある七つの門で装飾品と衣装を次々に剥はぎ取られて神力
 を失い、冥府女神エレシュ・キガルの返り討ちに遭って死んでし
 まう。しかし豊穰神がいなければ地上に草花が芽吹かないので、
 嘆き悲しむ神々の頼みで創造神がとりなし女神イシュタルは復活
 する。冥府勢力から死の身代わりを要求されたイシュタルは、自
 分の代理を誰に頼むか決めかねたまま地上へ還かえったが、妻の不在



中豪勢に遊び歩き人生を謳歌していた夫を見て腹が立ち、結局自分でタンムーズを殺し冥府へ送りつけた。

【メソポタミア】バビロニア神話

